公民館報
こすど
発行所
小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
編集発行印刷人　矢部藤三郎

# 稲の肥料設計をする前に何を考えるか

どうも近頃の稲はと云つて、先ずその次に来る言葉が何かうまい肥料の設計はありませんかねと、云う人が多い。それについて今から二五〇余年前の農学者宮崎安貞の著書「農業全書」の中に次の文章がある。それは

「それ農人耕作のことそのことわりいたつて深し。イネを生するもの天なり。これを養うもの地なり。人は中にいて、天の氣により土地のよろしきにしたがい、時をもつて耕作につとむ。もしその勤めなくんば天地の生養もとくべからず」というのです。

どうゆう意味を持つているかと云うと、稲を栽培する場合の理窟には中々深いものがある。稲のもつ性質はすべて生れつきのものですが、それを養い育てるものは土地です。農家は稲の性質を考え、土地の肥えているかどうか見きわめて適當な季節に色々と栽培の手立を講じ、それがいわゆる技術となります。もしその世話ができなければ、たとえ能力優秀な品種をよい環境の下で作つてもその効果はあがらないということになるというのです。元祿の昔既に今日の栽培の理論（收量は品種環境技術の三つの調和によつて決定する）をよくいゝ現わしております。このことから考えますと肥料の計画を樹てる前に次のことが考えられませんか。

稲は早中晩があり従つて、出穂期も一ケ月近くの差ができます。そして收量を増すよい穂即ち有効分けつを時期的にみると田植期より出穂予定日までの日数の半分よりやゝ前までに分けつしたものが多く、その後に分けつしたものは無効分けつに終るものが多いのです。それなのに未だ早中晩各々の作業の適期と云うのがあり乍らそれを無視して、作業を御都合本位にやる人も少くないようです。稲はこう叫んでいる筈です。田植期は早生は五月二十七日頃、中生は六月五日頃、晩生は十三日頃とし、苗代日数極早生四十日以内、中生四十日位、晩生四十五日位として前にさかのぼつて播種期を定めるから早生は四月十七八日頃、中生は四月二十五日頃、晩生は四月三十日過ぎ頃播いて下さい。みんな一諸に播くことにより中晩生を早く植えて、無駄な肥料を多く吸わせともすると秋落を出したり、早生を植えた爲分けつし乍ら穂を出すだらしのない稲をでかすのです。皆さんこの稲の声を余り曲げないで下さい。せめて三段階にできない方は早生と中晩生とに分けて十日前後の差で播きましよう。それでこそ理想的な段植ができ最も急がなければならない田植一週間前後の中耕除草もできることになります。

次に栽植密度の問題も軽視できません。去年縣内の増收田入賞者の平均は坪当五六、七株です。收量と云うものは坪当穂数に一穂重と一粒重をかけたものですが、その穂数を株数よりも一株の分けつ数で確保している人が多く見受けられます。成程株數を少くすることにより労力が幾らか節約なるのでしょうが段播実行により田植労力を分けることにより密植実施の問題が解決でき、且つ少い肥料でよいからその分で労力費が出せるでしよう。

粗植は一般に多肥（窒素）と早植を要求し特に多肥粗植は有効莖歩合が低くなり高次分けつを多く出し穂揃不良となるのが通例ですし、本地帯の栽培的秋落は少なからず分けつの過剰から來ております。それでは、密植の方はどんな特徴があるかと云うと株數が多いので坪当の有効莖数（穂数）を確保することが容易である。と云うことは一株の分けつを多く出させなくともよいので、無効分けつ少く一次及二次の分けつであるので穂の構成がよくなる。然し粗植論者は肥料で分けつ確保すると云うかもしれないが穂數は予定通り確保できないと思う。分けつが必ずしも穂數にならず或る程度の分けつを過ぎたものは、穂になる割合を少くし、穂にならない分けつは穂になる莖を害し結果として穂重が軽くなるのを御存知でしようか。勿論穂肥どころか……それに比べ密植の方は少肥でゆくから穂肥を最大に発揮できる場合が多いと考えられます。

今後の感覚として株數を増し穂数を確保すのが安全であらうが、実際には品種や土壌等の差異によつて具体的に明示できないが、普通の耕土であれば農林一号及び二一号等の穂數型は五〇―五五株、二本植位とし、やゝこがね農林四三号等は五五―六〇株位がよいでしよう。小林村の試験場の営農試験地は一尺の六、五寸で五五、四株の二本植です。裏作跡地（麥菜種）は一尺の六寸、六〇株二本植の計画です。泥炭地、瘠薄地等は六〇株位が安全ですが、何れも長方形植が適当と考えられます。分けつの多いのも少いのも又肥沃地も瘠薄不良地も一定の密度に植えないように框も二―三種類用意が必要です。或程度共同にするのも経済的でないでしようか。

昨年二四―D撒布したため減收（穂數の減少）した例があつたが、もう少し密植することによりこの割合を少くすることができた筈です。除草四回数を三回もやつた上で、二四―D使用も全く不合理です。このように技術の関連性が考慮されていないようでは新しい技術を導入しても成功しないことが多いものです。その爲には与えられた環境に適当した技術の体系を採用する爲、作業に計画性を持たせることです。技術は個々ばらばらでは活きて來ません。如何に上手な肥料設計ができても外の要素と組合せ方が合致しなければその設計が死ぬことを考える必要はないでしよか。

改良普及事務所　松井

---

## 今こそ
# 公明選挙
## 實行の時

公明選挙が叫ばれてから二回目の衆議院議員選挙が四月十九日に行なわれる。出たい人より出したい人をと今こそ公明にして正大な選挙を実行すべきである。

天地に恥じざる眞の理想選挙をやるべき時は今である。小須戸町六千の有権者よ、公明選挙を口に叫び実行して天下に範を示し眞に吾等の代表として実行力ある有意有能の人を選出すべき時は今にして他にないということを自覚せよ。「政党か人物か」はデリケートの問題で一がいに決し兼るが、両方にらみ合せて眞に国政を料理し国民の福祉を招來増進する公明正大なる代議士を選出すべきではないか。

進んで公共に奉仕し平和的文化国家建設の大業に寄与する人物を。

小須戸町に於ける立合演説会は十四日と思う。各候補者の立合演説は有権者が投票者を決定する有力な参考となるものだ。

それはたとえ反対陣営の者の言論であつても耳を傾けて欲しい。元來民主主義というものは反対の立場の主張も充分にきくことにある。

投票棄権は罪悪であるという見地から、万難を排して投票すべきものである。

過去に於て百パーセントの成績をあげた町村もあるということを銘記すべきである。

### 選擧日

衆議院議員　四月十九日
参議院議員　四月二十四日

---

# 卒業生を送り新入生を迎う

螢の光窓の雪に文よむ年月重ねつゝ小学校は六年、中学校は三年の義務教育をはたしたことは、誠におめでとうございます。此の間病気もせず雨の日も雪の日もうます撓まず勉学の道にいそしみこゝに卒業証書を手にされまして、御一家皆々様のお喜びお察しいたします。

小学校をでられた全町参百の諸君は小須戸原頭に堂々そゝりたつあこがれの中学校に入学されますことは、どんなに嬉しいことでしよう。四ヶ校の卒業生が一つ校舎に一だん高き学問を身につけ強き身心を養うことは年來の志望でした。仲よく樂しく互いに援けあつてあと三ヶ年の義務を全うして下さい。

中学校卒業の参百の生徒諸君は家庭の事情により上級の学校に進学する者、活社会に職場を求むる者、家庭に入つて父祖の生業に従う者等々

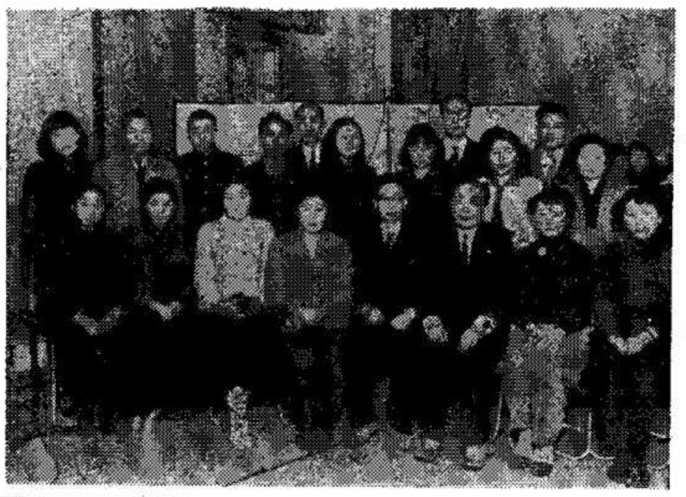
わけ登る麓の道は異なれど
同じ高嶺の月を見るかな

人生窮極の目的は人間型成人格の完成にある。

生れて就学の初期に達するまで満六年、今日の入学をどんなに待つたことでしよう。父母兄弟に手を引かれて校門をくゞる小さきハートが、どんなにか高鳴ることでしよう。全町参百の新入生、お手々つないで元気よく仲よく通学して下さい。今日は何と言う字を習つた、いくつまで數えられた。こんなうたをおぼえた。と家庭の中も一だんと明るくなることでしよう。

風も引かずすこやかに育つて下さい。家庭という温床から学校という世界に入つて毎日が目にみえて成長する六年間です。おめでとうございます。

---



小須戸町合唱團―放送記念撮影―

---

## 昭和廿七年度
# 一年の回顧
小須戸公民館

### 表彰三題

公民館報編集優秀
自作スライド入賞
公民館施設の優良

年度中三回にわたつて表彰されたことは公民館史に残る記録である。一朝一夕ではこの成果をみることは出來ない。多年の努力、積年の苦心が積り積つて報えられたのだ。

表彰されたことは第二義的のことで役員並びに町民各位が地域の社会教育振興に燃ゆるが如き熱意を捧げたこと。要するに町民各位の力を結集したことによつて実績がみとめられたもので、表彰をうけたい等と思う心はみぢんもなかつたのだ。積善の家に餘慶ありか。

### 視聴覚教育

公民館に視聴覚部が誕生して発足したのは今年だ。從來も視聴覚教育には青年の熱意で実績をあげていたのだが、規約を法文化し陣容を整えて六十名のエキスパートが斯教育に奉仕したのは今年の一大ヒットである。

### 生活改善

生活改善の本年の山は文化祭を中心にして其の前後に活動された。台所改善にカマドの改良に瓦斯の取り入れに、婦人会青年團みどり会の講習会研究会に、今は町戸々の台所に反映して着々とその実績をあげている。

### 分館活動

各分館が地域の社会教育に実績をあげたことはわれひと共に認めるところである。青年教育の面に於ては分館で一手に引きうけて献身的に犬馬の労を惜しまなかつたたまものである。

### 奉仕に明け暮れ

審議員は僅かな手当を二ケ年分野球バックネット建設費に寄附して一切を奉仕で暮した。視聴覚委員もすべて奉仕でやつてくれた。奉仕の心程尊いものはない。

この美しい心で終始してくれたので運営が氣持よく進んだ。

奉仕公民館といつても過言でない。

### 会計のルーズ

会計経理がなつていなかつたことは係が一年生で五里霧中であつたこと町の金庫がいつも窮乏をつげていたことです。好意を持つて立替た人に支払が出來ないで一方ならぬ御迷わくをかけたこと、業者に支拂が出來ないでいつ迄も引きずつたことは申わけがたゝない。文化祭の費用がまだ一文も町の金庫から出ていないこと、分館補助が一月下旬に一部出たつきりこんなことは前代未聞でしよう。

---

## 人間業をはなれた
# 珠算競技大会
共催　商工会　公民館

三月一日一時から公民館で第一回の珠算競技会が開催されて腕に覚えのある方々は小学生から上は高等学校生徒まで、百人に近い選手によつて神業としか考えられない妙技が展開された。

入賞者次の通り

小学生之部
六年一等　笠原カオル
二等　古川晋一郎
三等　小見翼子
三等　森内伸生
四等　八木章次
五年一等　片桐栄子
二等　吉岡利昭
三等　石井力
四等　高橋ヒサ子
五等　岡田洋子
三四年一等　小柳健二
二等　笠原糀志雄
三等　佐々木直幸
四等　須藤幸子
五等　渡辺ケイ子

中学校の部
一等　竹石一夫
二等　上田芳宏
三等　柴田洋子
四等　高山七夕
四等　井上一義

高校の部
一等　新井田スミ
二等　横山幸

種目別読上算　小学生
一等　吉岡利昭
二等　笠原カオル
三等　小見翼子
四等　須藤幸子
五等　片桐栄子

全中学校の部
一等　竹石一夫
二等　井上一義
三等　小宮孝治

読上げ暗算　小学校の部
一等　古川晋一郎
二等　伊藤ヒデ
三等　吉岡利昭
四等　大倉孝治
五等　鈴木一雄

中学校の部
一等　上田義雄
二等　高山七夕
三等　竹石一夫

---

## 實話小説
# 鯉 （二）
飯袋子

十一月号より続く

娘も又其の日から一層河村を慕うた。村一二番と言われる大農の次男坊眼さい悪くなかつたら青年間にも相当羽振を利かす人であり乍ら仲間も無く青春の身を頸垂れて寺詣りとは人生は儚きものわらわも祖父の代迄は村の庄屋として村人を顎で使つた家柄に生れ乍ら明治の廃播以來急激に家運衰い今では雑魚も売らねば立ち行かん生計とは。彼に同情し自分を顧みて險を濡す事も再三再四であつた。

眼病は癒つた。河村は村を後に出世の旅に出た。京都六條に新潟屋旅館の堂々たる看板も其は村の若い者を見返してやろうと奮闘精進した事は勿論である。彼河村が一人前のコックに成[illegible]彼が今大きな鯉[illegible]ようと俎板の上[illegible]時だつた。「御[illegible]と若い女の声[illegible]居らすハイと河[illegible]上つた二人の顔[illegible]一剎那一足二足[illegible]すり退つた。十[illegible]一時も忘れぬ彼[illegible]き写しではない[illegible]イヤ世間には良[illegible]が必ず三人は居[illegible]た。よもや新潟[illegible]ら彼が一人で出[illegible]もあるまい。西[illegible]はどう行きます[illegible]ある、彼の娘で[illegible]と胸をしずめて[illegible]が全く別人とは[illegible]只年令に少し違[illegible]かと思われるだ[illegible]突き当りを左へ[illegible]教えた。有難う[illegible]のべて立ち去る[illegible]見ても彼の娘曲[illegible]つても猶河村は影を追うのであつた。

元の所へ戻つた時には鯉は失かつた野良猫にでも盗られたのであろう。

早晩獨立一家を構えねばならん昨今の河村今日は田舎へ彼の娘の安否を尋ねようか明日は手紙を書こうかと思つて居た矢先とて矢も盾もたまらず田舎の兄の元へ筆を走らせた。一日に何度となく戸外に郵便配達のくるのを待つた。一週間は過ぎた。來客と話しの中へ郵便と一通の封書が置かれた。兄からの手紙である。河村が封書を切つたので客は辞去した。

客を見送る間ももどかしく手紙をよみ乍ら座に帰つた。何物かを探すように手紙を拾え読みに先を急いだ。手紙を巻く手は[illegible]

御入学御進学祝に小学館の各学年雑誌
少年物　少女物　各雑誌を一済発売中
新刊書籍　教科書　優良文房具を陳列
須藤書店　電話六一番
各種小学大全科　中学校自習書等豊富取そろえ
○参月末締切りました当店募集の商標は御蔭様にて終了致しました入選者は五月号館報紙に発表

# 矢代田駅の變遷

(二) 小柴五三九

「青果物」地元の物としては、寺社柿昭和七年頃より、出荷年間数量は作柄及新潟市況の関係上四五十噸より、百五十噸位、梨は大郷茨曽根産にして出荷事情は柿と同様にて年間四五十噸より二百噸位、

「藁工品」縄は大正末期より農家の副業品として年間百噸位なりしも、工場生産が始まり年額四五百噸位になりしも、戰時中労力不足の爲め半減せしも戰後工場も増し二十七年度には千五百噸位に増加し各工場共製品の向上に努力されれば益々出荷量も増大するものと思う。二十五年に疊床工場が出來、三百噸位の出荷ありしも経営不良の爲か一年にして廢業せり

「織物類」綿織物（小須戸夜具地及縞）鐵道開通当時よりの主要貨物にして大正七八年頃より動力織機導入により急激に増産カーブは上昇、更に人絹を取り入れ着尺物の製織等鋭意研鑽、染色縞柄など技術の向上を計り昭和十年頃年間五十万反位に及び、東北、北海道方面に根強き販路を有せし問屋二店あり、機業地小須戸町の名をなさしめしも戰時中統制やら織機の供出により生産は激減し、駅貨物としては昔日の面影なく、諸工業の復活速度に比し遜色あるは、諸々事情のあるは勿論ならんも、地元に問屋の如き販売機関なきも大きな因にはあらずやと愚考せらる。当町産業の大宗たる且つは傳統ある機業発展の爲め業者は勿論町民及町爲政者共に一大奮起を促して止まむものです。白根染物及絞りは是れも開通当時より出荷されし物にて、未だ小須戸橋のなき時は人の背に負ひ渡舟にて越して來たのでありまして、自動車による今日より見れば隔世の感がいたします。昭和初期迄は相当の量なりしも捺染の機械化したる先進地産に圧倒されしか今は皆無、理研紡織の製品も戰時中織機供出にて会社解散せしは時代とは申せ寂しき次第なり。

「酒類」名酒千代祝は三四千石の醸造にて鉄道及び舟積にて各地へ積み出されしも、統制の爲め廢業され、戰争末期軍用酒石酸を得る爲めにブドー酒の醸造あり、例の身ぶるいする様なブドー酒も酒類不足の爲め相當量出荷されしも、今は焼酎、合成酒に替り出荷量も年々増加の傾向。

「醤油」小須戸白根より相當出荷ありしも、白根駅開業以來小須戸産のみにして戰時中原料等の関係か多少減少の様に見受けられしも二三年來漸増の傾向にあるは嬉しき兆なり。

「漬物」昭和七八年頃より発送あり、十四年より十九年頃迄年間千二三百噸位にして、又戰時中軍用品としても相当輸送され其頃は何時も貨物上屋に配車を待つ漬物樽は車窓より旅客の目も引き、よく外來客より尋ねられ蒲原平野の野菜を原料とした越後味噌漬や福神漬の本場ですなど宣傳したものですが、近年は漸減年四百噸程度。

「加工材」明治年間より昭和十年頃迄石油樽用材の出荷相當多量ありしも現今は皆無。

「銅線」昭和七年頃より年間二百噸の出荷なりしも漸増、現今は年間五六百噸。

「インキ」昭和十一年頃より白根より年間約二百噸出荷ありしも十四年頃より漸減現在なくなりしも、昭和十八年頃矢代田丸善工場より年間三百噸位出荷ありしも、是れ又二十四年閉鎖。

「稲扱機」大正四五年頃より白根庄瀬より出荷昭和初期迄続き盛大の頃は年一万五六千台に及びしも、動力用脱穀機の出現により姿を消したるが、西蒲小池村は昔より小池の万石と称し万石の生産地たりしが、あの交通不便の僻地なれ共脱穀機製造に着手し、今は八つの大農機具工場あり一大農機具生産地として有名になりしを見る時、當地の稲扱機製造者も折角修得した技術と経験及び開拓した販路を活し、動力用脱穀機製造に移行出來なかつたかと素人ながら考えさせられたものです。

「石油」大正五年頃迄タンク車輸送があり、大正末期迄車軸油か年間三四百噸、九洲方面に積出されしも其後皆無。

「型砂」昭和七八年より出荷、戰時中は年間七百噸より多い年は千四五百噸ありしも、戰後鉄工界不振の爲め今現は二三百噸程度。

「アスファルト」昭和二十二年千五百噸位ありしも漸減二十六年は三百噸位なりしも、二十七年は多少増加、今後道路鋪装の増大により出荷の増加を期待出來ることと思う。

「プラスチック」新興産業にして二十五年頃より少量出荷あり二十六年には年間二百五十噸位なりしも、二十七年度は恐らく倍額の出荷を見ることと思う。なほ益々増加の予定。

以上で大体土地の産業品目の変遷の概畧を述べましたが、到着貨物は肥料であり、其変遷も昔外米原木薪炭などが主なる物が入荷せしも現在はなく大豆粕が化学肥料に替り戦時中大豆甘藷（醸造用）海草等が入荷し、又揚排水機用資材等は特殊の物であり、何と申しても二十年三月より八月迄の間に於て軍用品二三万噸の捌きを町民諸氏の勤労奉仕による御協力に依り遂行した事が私の業界生活中の最大の物であり終生忘れる事の出來ない思出であります。

附記

| | |
|---|---|
| 明治三十年十一月十一日 | 矢代田駅開業 |
| 明治三十年 | 丸八運送店開業 |
| 明治三十一年 | 丸一運送店開業 |
| 明治三十二年 | 熊木運送店開業 |
| 明治三十四年 | 金中運送店開業 |
| 明治三十四年 | 丸一運送店廃業 |
| 明治三十八年頃 | 丸矢共益運送店開業 |
| 明治四十四年 | 小柴運送店開業 |
| 大正八年 | 小柴運送店が共益運送店を買収 |
| 大正十四年頃 | 熊木運送店が叶と改名 |
| 大正十五年 | 丸八運送店と小柴運送店が合併矢代田合同運送合資会社設定 |
| 昭和十一年 | 矢代田合同運送株式会社と変更 |
| 昭和十五年 | 金中叶両店を矢代田合同運送株式会社が買収合併 |
| 昭和十八年 | 中東蒲原通運業者が合併北越通運株式会社を設立同社営業所 |
| 昭和二十年 | 日本通運株式会社に買収され同社矢代田営業所 |

---

# 季節の言葉 …四月…

## さくら

杉田優

春爛漫の花を追つて、選挙戦も酣である。まことに花々しい季節。

××××

傳統の文学で「花」といえばさくらに決つている。月見、雪見、花見と並べて見れば成程をうなづける。が、現代は「花見」を年中行事にしていた頃とは、いささか趣きを異にしている。雪どけを待ちかねて咲出るクローカスの可憐さ。霞む川べりの桃花のあでやかさ。チューリップの濃艶さ。名もなき野辺の花といえども、それならではの美を持つている。行楽……ハイキング……めんどうくさい映画でも……という者もいる。まさしく「個我の世紀」だ。

×

價千金の春宵を、三々伍々と連立つていく処は立会演説会だ。近頃では年中行事になりかかつている。主権者ともなれば公僕の政見批判に出向かざるを得ない。

会場では「さくら」がさかんな拍手を送つている。他はおおむね「考える人」のポーズだ。ヘネて巷へ出ても話題になるのは候補者の容貌かゼスチュア位のものだ。批判や意見は容易に洩らさない。「みんな立派なお話で、誰に投票していいのか解らない」がオチである。無理もない。彼等の政見を聞けば、どれもこれもが勤労大衆の味方で中小企業者の利益代表で、婦人子供のために犬馬の労を厭わぬ申分のない紳士ばかりである。「バカヤロー」の類いがどうして彼等の辞書にあり得よう。したがつて有権者の辞書にも批判や意見の必要がない。安心して自己の畑を愛撫し一日の行楽に春の哀愁を探ることが出来るのである。

さて、疲れて眠くなる頃、裏口から「さくら」が顔を出す。このあたりもまたまことに申分のない春である。

---

# 國鐵ダイジェスト

矢代田駅長

客車の記号

イ（一等車）ロ（二等車）
ハ（三等車）ユ（郵便車）
ニ（荷物車）ネ（寝台車）
フ（車掌車）シ（食堂車）
チ（展望車）ヘ（病客車）
ヤ（省用車）コ（積載重量二十二トン未満）ホ（二十二トン五～三十七トン四）ナ（二十七トン五～三十二トン五）オ（三十二トン五～三十七トン五）ス（三十七トン五～四十二トン五）マ（四十二トン五～四十七トン五）カ（四十七トン五以上）

以上を組合せて譬えばオハ・オロ・オユニ・ナロネ等でどういう客車かがわかる

貨車の記号　ワ（有ガイ車）ト（無ガイ車）ス（鉄側）テ（鉄製）レ（冷蔵車）ツ（通風車）カ（家畜車）ウ（豚積車）ペ（家禽車）ナ（活魚車）ポ（陶器車）タ（タンク車）ミ（水漕車）チ（貨物車）セ（石炭車）ム（積載重量十四トン～十六トン）ラ（十七トン～十九トン）サ（二十トン～二十四トン）キ（三十トン以上）

以上を組合せてトム・トラ・タサ・ワム・ワキ等と呼ぶ

最後に駅名は其地名であらわして居るが其の中で動物の名前を集めて見た。

| | |
|---|---|
| まなづる（真鶴） | 東海道本線 |
| さめ（鮫） | 八戸線 |
| しやけ（社家） | 相模線 |
| こい（己斐） | 山陽線 |
| たら（多良） | 長崎線 |
| やまべ（山部） | 根室線 |
| はや（芳養） | 紀伊線 |
| えび（江尾） | 伯備線 |
| あさり（朝里） | 函館線 |
| あさり（浅利） | 山陰線 |
| やぎ（八木） | 山陰線 |
| おむ（雄武） | 与浜線 |
| おゝとり（鳳） | 阪松線 |
| ふくろ（袋） | 鹿児島線 |
| たか（高） | 芸備線 |
| かも（加茂） | 信越線 |
| もず（百舌鳥） | 阪和線 |
| せみ（瀬見） | 陸羽東線 |

---

# コンポジション

## 裸 (一)

生野守

日本人程裸を人にみせたり見たりするのをきらつた国民は無い。ところが日本をストリップショウが風靡した。

神は無限の創造をくりかえす。裸は神の創造である。美の極致を裸にみるところが裸体画や裸婦の彫刻は特別室に陳列して未成年者入るべからずと入口に札を張つた時代もある。雑誌の表紙に裸の絵がかいてあるとたちまち売り切れる今日とは隔世の感がある。裸をみせたり裸をみる倶楽部さえある。裸一貫を元手として暮している商売にモデルと言うのがある。元手入らずの商売だと思うと長時間色々なポーズで釘づけにされてさぞしびれを切らすことであろう。デッサンは洋画をやる人の基礎修練の道である。モデル商売も楽ではない。

昔は一年を十日で暮すよい男といつた角力取りも今は四場所制一場所十五日それに地方巡業と、東京で暮す日は何日もあるまい。身長七尺になんなんとし体重四十貫餘り八貫目男の五人前だ。仁王様のような巨人が土俵のまん中でブチカマスんだから豪勢のものだ。寒風に吹かれ氷る海中に飛びこむといつても自殺ではない。それで生活している海士の生業、海士は云う、冬は温く夏は涼しいと、感冒と夏やせはごの世界には無いと、惠まれた世界だがこれはつかりはご免だ。やつぱり炬燵で風を引く方に魅力がある。之と似たものに裸で鍬を揮う農夫の労働。夏中日光の紫外線に身体を鍛えると冬風を引かない。一面の眞理はある。

「身ぐるみぬいで置いて行けぐづぐづぬかすと命がないぞ」と旅人を裸にして暮していた追剝という凄い商売もあつた。遊覧バスで東京を見物した時にどこかで平和の女神の銅像をみた。三人の乙女が裸でたつている美しくも神々しい姿であつた。パリのある公園には男の子が裸でシアシアやつている噴水があるのを写眞でみた。可愛らしいユーモラスにとんだ情景である。日本人はそんな思いきつたことはやれない。戦時中旗を背負つて裸を宣傳して日本をまわつた人を汽車の中でまのあたりみた。裸で道中なるものかと云つた昔とは世相がかわつた。南蒲原には裸先生という有名の先生がいられて、寒中小学生を裸にして体操をやらせた。そのてがらで今は北蒲原の某村の中学校長に栄転した。物資の欠乏した戦争中の時流の波にのつたのか。丸裸これ程暑きものはなし。川柳はうまいことを表現した。丸裸でも汗の流れる夏の生活の裏には夕顔棚の下涼みという和やかな風景もある。亭主もおかみも子供も丸裸で左團扇を使つて四方八方話に時を過す一こまも愉しい。行水の捨所なし虫の声湯とりのすがすがしさ労働の汗を流し去つたあとの心情はまた格別。働く人にのみ惠まれる心境。

---

## 小須戸郷 青年幹部講習會

主催　郡自治振興会
　　　郡連合青年会
後援　小須戸連青團
　　　郡町村長会
　　　郡議会議

三月八日小須戸町公民館で有意義の講習会が開催され終日熱心な講義と研究がつづけられた。

地方自治の諸問題
青年團の在り方
研究討議

以上

---

## 二十七年度 主なる事業

公民館

四月
二十六日幻灯コンクール
五月
三日公民館開館式
三十日当用漢字講習会
六月
十九日新かなづかい講習会
二十四日再び葛塚町公民館視察
七月
二十一日燕公民館視察に來館
二十五日鹿瀬公民館視察來館
八月
二十五日野外映写会
仝日鳥屋野公民館視察に來館
二十六日囲碁将棋大会
九月
五日すわらじ劇團上演
郡と共催公民館研究会
二十一日町民体育大会
十月
二十一日全国優良公民館視察團出発石川県
十一月
二日三日文化祭
三十日幻灯部新潟刑務所慰問
十二月
三日南魚助役一行來館
一月
二十七日豫算総務部会
二月
四日予算審議員会
六日講座大井先生
七日幻灯コンクール
十五日映写機講習会
十五日かるた大会
十六日町民かくし芸大会
二十二日囲碁将棋大会
三月
十四日越の千涯画伯良寛を絵で語る会
二十日菅野力夫世界探険談と展示会

---

## 彌生句報

小須戸俳句同好会

雨歇むカナリヤの嘘窗翔くや　越楼
出代りの仕舞い忘れて行きし文　吾郎
カナリヤの鍛えかけし囀りや　仝
種子をえる一つ一つに日こぼれ　山葵
出代りの持荷の中の腹薬　仝
大崎菜大根干とならべ売る　流水
出代りや見送り見返る顔と顔　仝
屋根替をすませてからの大法寺　ひさ
ひばり鳴き早春の空仰がする　渓灯
切口の樹液止まざり木の芽風　虚秋

---

## 出生・死亡

自 二月二十日
至 三月廿一日

### 出生

| | |
|---|---|
| 横川浜 | 高野藤三男 |
| 鎌倉新田 | 本間利津子 |
| 小須戸 | 本盟　誠 |
| 小合村 | 大竹まり子 |
| 新潟市 | 渡辺圭子 |
| 小須戸 | 梅津、令子 |
| 矢代田 | 田沢正男 |
| 小須戸 | 泉田安夫 |
| 矢代田 | 新井田松雄 |
| 鷲巻村 | 岡村和美 |
| 新保 | 一本鎗巳三男 |
| 鎌倉新田 | 馬場玉枝 |
| 鎌倉新田 | 笹川日出晴 |
| 田上村 | 江川幸夫 |
| 水田 | 海津右太衞 |
| 新保 | 高山千代江 |
| 新保 | 高山悦子 |
| 小須戸 | 五十嵐信広 |
| 竜玄新田 | 川瀬京子 |
| 小須戸 | 田中ハルミ |
| 天ヶ沢 | 吉田茂男 |

### 死亡

| | |
|---|---|
| 小向 | 臼井勝男 |
| 小須戸 | 佐藤悦子 |
| 小須戸 | 渡辺秀英 |
| 新保 | 坂井覚 |
| 加茂町 | 大関幸子 |
| 小須戸 | 高橋正一 |
| 小須戸 | 大関久一 |
| 〃 | 小柳タセ |
| 天ヶ沢 | 木津源十郎 |
| 小須戸 | 原ユリ子 |
| 龍玄新田 | 渡辺チヨ |
| 水田 | 高井ミセ |
| 小須戸 | 星野五郎 |
| 天ヶ沢 | 吉田茂雄 |
| 新保 | 須藤タセ |
| 小須戸 | 眞保トリ |
| 小須戸 | 加藤庄平 |
| 龍玄新田 | 星名マツ |
| 新保 | 山崎政雄 |

---

# 家庭欄

## 飲み物の温度

飲み物の温度にはすべて適度というものがある。

お酒は攝氏五十度、コーヒー紅茶は六十五度、おしる紛は七十度、お吸物はスープは八十度に温め、いただくときに六十度くらいに吹きます。冷たい物ではビールが攝氏十二度、サイダーラムネは十度くらいが適當です。

## ガス使用のコツ

焰の大きさの調節が使用のコツです。はじめは強く沸騰したら細くして煮上げると二三割は節約になります。外焰が温度はもつとも高いので鍋底に外焰がふれるよう空気孔の調節も大切です。空気が多すぎると焰が短かく、不足になると焰が長く細くて火力が弱く、どちらも不良です。焰が青くて長過ぎず、火力が強くかすかな音で燃える程度が理想的です。

コンロ用石油
耕耘機用石油
日本石油特約店
田中油店
一番町 電話120

運動靴
地下タビ
強いはきよい
横川
横山履物店

ナショナル
ラジオ 電氣具
化粧品 食料品
浜屋
二番町 電112

ヒドリ号
無期限 保証付
総ベアリング防水装置
坂井輪店
電170